

問題解決型救急初期診療 第2版

田中和豊 著

＜書評者＞ 岩田充永（名古屋掖済会病院救命救急センター
副センター長）

ある往年の大投手は、プロ野球で活躍を期待される若手投手から「直球で勝負できる投手になるためにはどうしたらよいでしょうか？」と尋ねられ、「徹底的に走り込むこと！」と答えたそうです。これは真の実力をつけるのには近道がないことを示しています。

しかし、真の実力がつくまで時間は待ってくれず、直球で勝負できるレベルに達していなくても、「このコースに投げれば打たれない」という投球術を駆使してプロ野球の世界を生きている投手はたくさんいます（多分…）。

国家試験に合格して間もない時期から救急外来に放たれる（！？）臨床研修医は、いきなり登板を命じられマウンドに登る投手のようなものです。「まだ、直球で勝負できるような実力は僕にはありませんから…」という言い訳は許されません。そのような厳しく過酷な現実の中で、「この主訴のときにはこの疾患を考えて、この検査とあの検査をやっておけばよい」というマニュアルや、「この症状でこの所見の場合は●●（重篤な疾患）

の可能性があるので要注意!!」というパターン認識を駆使して切り抜けようと試みている方も多いのではないのでしょうか？ これは、いわばピッチャーの「投球術」に当たるもので、大変役に立つものですが、投球術だけで切り抜けられるほど臨床の世界が甘くないのも現実です（長年、救急外来で働いていると本当に身に沁みます…）。

本書『問題解決型救急初期診療 第2版』は、投手の走り込みに当たる“臨床医の基礎体力”を身につけるための書籍です（マニュアル本サイズではありますが、決してちまたに溢れるマニュアル本ではありません）。胸痛、腹痛、頭痛から外傷まで臨床医として遭遇する事態に対して、病態生理や病理を重視した“本道”のアプローチが記載されています。世の中にはたくさんの病気がありますが、病態生理や病理に基づいた“本道”の思考を修得できれば患者に不利益を及ぼすような失敗を避けることができます。

活字を読まなくなったとやゆさ

れる世代には厳しい要求かも知れませんが、ぜひ、一文一文を味わって、熟読・読破してください（国家試験が終わって最後の春休みを謳歌している医学部6年生の課題図書にしようかなあ〜）。臨床医の出発時に本書によって基礎体力（臨床の基本的な思考能力）を身につけた者は、直球勝負ができる体を作り上げた投手が実践で投球術を体得するがごとく、臨床研修の現場でクリニカルパールを蓄積していくことができると思います。そうなれば鬼に金棒、皆さんの臨床医としての人生は充実したものになるでしょう。

「もう、臨床研修なんて終わっちゃったよ〜」という皆さん、決してあきらめることはありません。われわれの世代には、「後輩に教えるふりをして、自分が勉強する」という得意技があるじゃないですか！「君たちにとって非常に役立つ本だから、一緒に読んであげよう」と研修医と勉強会を開いて、さあ、一緒に勉強しましょう！

●B6変 頁608 2011年
定価5,040円
（本体4,800円＋税5%）
[ISBN978-4-260-01391-8]
医学書院刊